

★ウサモルハウス 記念撮影コーナー★

クリスマスパネルの前で記念撮影しよう！衣装も貸出中です。

日 時：フェア期間中毎日

場 所：ふれあい動物園「ウサモルハウス」前

※ カメラはご持参ください。



☆キーパーズトーク「ライオン」☆

日 時：12月の土日祝 11:30~11:45 ごろまで
(30日(日)は休園日)

開催場所：「草原の世界」ライオン・ガラスビュー前

飼育スタッフが担当動物のおはなしをするキーパーズトーク！

今回は、ライオン。どんなおはなしが聞けるかな？

ライオンは、絶滅の恐れがある種として

「絶滅危惧Ⅱ類（VU）（絶滅の危険が増大している種）」に分類されています。

百獣の王である大人のライオンには、

原則外敵はいないのですが、

実は一番の外敵は人間なんです。

ライオンが棲んでいる自然の環境を人間が開発したりして、

ごはんにする獲物が少なくなってしまうたり、

密猟されてしまったりして、数が減っています。

そんなライオンたちの色々なおはなしや、

当園のライオンのおはなしなどなど…

飼育スタッフがわかりやすく解説します。

質問もしてみましよう 皆さんは何を聞きたいですか？



天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。

詳しくは、HP もしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問合わせ下さい。

森の仲間たち



「到津の森公園」事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093-651-1895 〒803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>

森のお便り 12月号 2018年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」18年12月1日発行 通巻190号

到津の森のクリスマスフェア

12月1日(土)~24日(月・振休)

※期間中の火曜日は休園

今年も、到津の森公園では、クリスマスフェアを開催します！
クリスマスデコレーションで飾られた園内には、
クリスマスソングが流れ、みなさんの気分を盛り上げます！
いつもとは少し違う園内で、動物たち、
そして、大切な人と一緒にクリスマスを過ごしませんか？
動物たちにクリスマスのプレゼントなどのイベントも
多数開催します！

☆クリスマスフェア期間中のイベント☆

★ミライちゃんからのクリスマスプレゼント★

着ぐるみの「ミライ」サンタが、園内に登場します！

小学生以下のお友達には、クリスマスのお菓子をプレゼント！

日 時：期間中の日曜日 13:45~30分程度
(各回100名限定)

場 所：樹冠デッキ~林床の世界~管理センター付近

★ロバマント デコレーション★

サンタクロースのマントを着用して、
いつもとは雰囲気の違いロバ乗馬はいかがですか？

日 時：フェア期間中のロバ乗馬営業時間
(10:00~12:00 / 13:00~15:00)

場 所：ふれあい動物園「ロバのりば」

※ ロバ乗馬一周200円。(30kg以下のお子様限定)



花暦師走

12月はイチゴの最盛期。あの形、あの色、あの香り、堪えられませんね。そして、私には、幼き日のイチゴを思い出し、感慨にふけるシーズンでもあります。

もう60年近く前の初夏の声を聞く頃、買ってもらう小さな木箱に納まるイチゴは、すぐにつぶれるので大切に持ち帰ったもの。口に含むと“ウツ”と酸味が先ず広がって、でもやっぱり嬉しく、イチゴミルクや練乳がけも楽しみました。あの小粒で野性的な味は、現代でもハーブ園のワイルドベリーに趣きが残されていますね。収穫期をふくめてイチゴの栽培技術の発展は、想像だに出来ない素晴らしさ。毎年新しいブランドイチゴが楽しめる贅沢な時代になったものです。

さてさて園内では真冬にルビー色のビーズ細工のようなイチゴを見つける事ができますよ。その名も「フユイチゴ」、やっぱり昔はイチゴは初夏の果物だったので、わざわざ“冬”の字がついています。林縁・林下・人里でもわりに普通に生える常緑の小低木です。葉は互性、5~10cm径で、心形、縁は浅く3~5裂し、鋸歯がたくさん。ツル植物のようなランナーを伸ばして、広がっていきます。よく似た仲間にミヤマフユイチゴ・コバノフユイチゴ等、案外多数あって、味や舌触りに違いはありますが、皆食用可で、毒を持つものはありません。

ちなみに春の「ヘビイチゴ」もまずいけれど無毒で、漢方薬に使われます。

寒中の雪の日でもフユイチゴの生き生きした葉の緑は美しく、赤い実をつけた姿は本当に美しいものです。

今冬も園内の森を歩いて、フユイチゴやヤブコウシの昔と変わらぬ姿を、見つけたいと思います。

文：花咲くおばさん

森の仲間たち・たんぽぽ

身近ないきもの

どの動物の担当になるのだろうかどきどきしながら、夢だった飼育員として到津の森公園に仲間入りした4月。その今年も残すところ1ヶ月となりました。担当になったのはニホンザルとアライグマ、ヤギ、モルモットやウサギなどの小動物たち。最近ようやくニホンザルたち一頭一頭を見分けることができるようになってきました。

そんな動物たちにあげようと、草刈りに出かける中で最近気になっているのがタンポポ！園内に生えているタンポポを見てみると、花を支えている総萼片（矢印の部分）がクルンッと下方に反り返っているものばかり…。実はこのタンポポ、セイヨウタンポポという要注意外来生物なのです。

もともといる在来種への影響が懸念される外来生物には、アライグマや昨年メディアにもよく取り上げられていたヒアリのように動物だけではなく、動かない植物も含まれます。目立たず、ひっそりと勢力を伸ばしていくものもたくさんいるのです。実際に日本にもとからいた、在来のタンポポたちは、今や20%ほどで、残り80%は外来種かその雑種なんだとか。

「あれ？いつのまにかいない、この風景変わったなあ。」は、今も身近なところでひっそりと進んでいるのかなあと感じつつ、何事にも関心を持っていきたい！そう思うのでした。

みなさんのまわりに咲いているタンポポは在来種？外来種？



飼育展示係 今村 桜子